

高 取 町 の 教 育

令和6年度全国学力・学習状況調査結果から見える高取町の子ども

Ⅰ 調査の概要について

○ 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○ 実施日：令和6年4月18日（木）

○ 調査対象とする児童生徒：小学校第6学年（54名＜内6名未実施＞）、中学校第3学年（53名＜内2名未実施＞）

○ 調査事項および手法

- ・ 質問紙調査：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- ・ 教科に対する調査 〔小学校：国語、算数〕〔中学校：国語、数学〕

○ グラフの見方

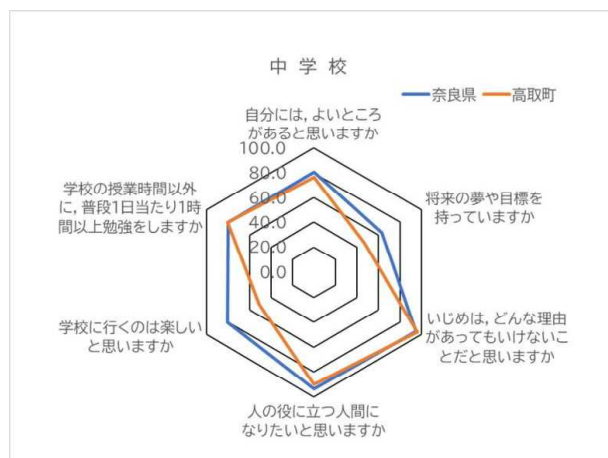
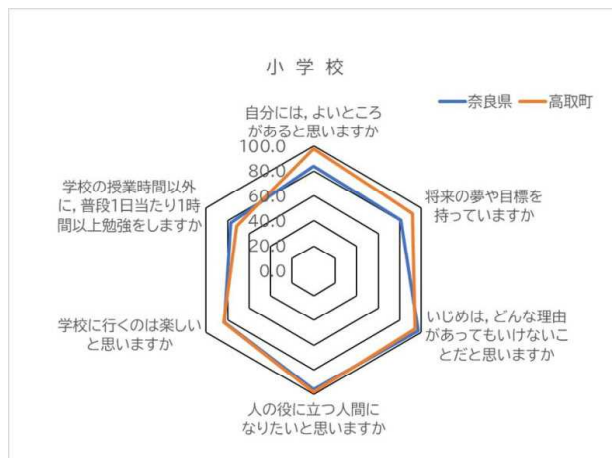
- ・ グラフの数値は素点（テストの点数）ではなく、正答率（最高100％）です。

オレンジ色のグラフが青色のグラフより大きい ⇒ 高取町の成績が県平均を上回っている。

オレンジ色のグラフが青色のグラフより小さい ⇒ 高取町の成績が県平均を下回っている。

2 調査結果について

○ 生活習慣や学習環境等に関する調査（抜粋）

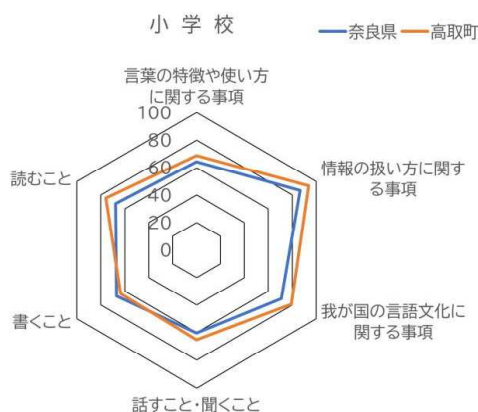


本町の児童・生徒の姿

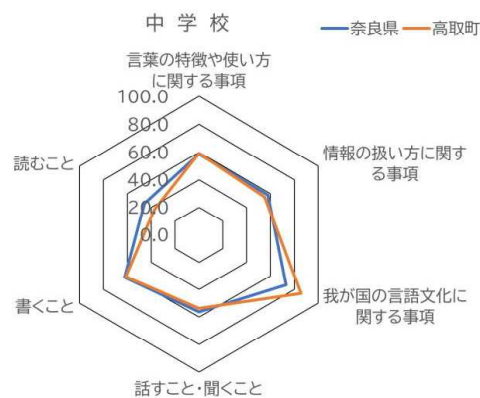
- ◇ 小学校は、「自分にはよいところがあると思うか」の項目において、県平均を20ポイント以上上回る98%超の児童が肯定的に答えています。また、「将来の夢や目標を持っていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目でも県平均を上回り、90%以上の児童が肯定的に答えていることから、自己肯定感が高く、将来に希望を持つ児童像がうかがえます。
- ◇ 中学校は、「いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか」という項目では、県・全国平均を上回っています。また、「学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか」については、2時間以上を選んだ生徒は全国平均を上回っています。このことから、本校生徒は規範意識をしっかりと持ち、一定の学習習慣を身に付けている様子がうかがえます。

○ 学力に関する調査（抜粋）

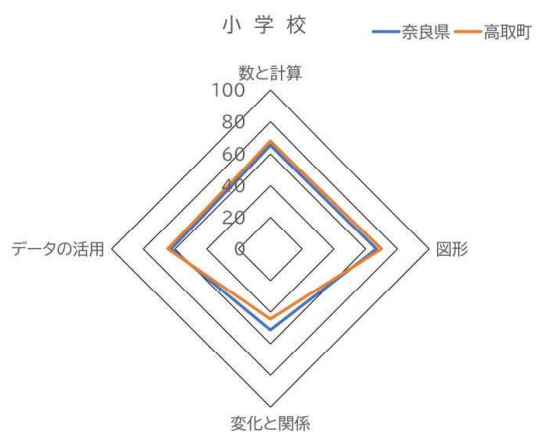
国 語



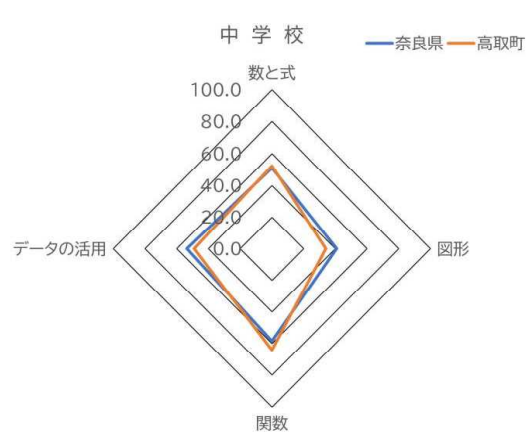
国 語



算 数



数 学



本町の児童・生徒の姿(学力)

◇ 小学校の国語は6領域中、「書くこと」の領域は県平均をわずかに下回りましたが、その他の5領域において県平均を上回りました。

小学校の算数は4領域中、「数と計算」「図形」「データの活用」の領域は県平均を少し上回りましたが、「変化と関係」の領域では県平均を少し下回りました。「変化と関係」は基礎学力を応用して解く問題が多いため、応用力を高めていくことが今後の課題であると考えられます。

◇ 中学校の国語は、全般的に県平均を下回っています。特に思考力・判断力・表現力における「読むこと」に課題が見られます。

中学校の数学は、「数と式」「関数」は県平均を上回っていますが、「図形」「データの活用」に課題が見られます。

3 課題に対する改善方法

◇ 小学校において算数は、基礎・基本的な知識技能の向上を図るために継続してきた「朝学習」の成果が現れており、今後取り組みを継続していきます。また、課題となる応用力については、A Iドリルを活用して練習問題に取り組んでいきます。今年度からA Iドリルの仕様が変更されたことに伴い、個別の進度に合わせて学習に取り組むやすい環境も整えられています。

国語では、「書くこと」の領域について取り組んでいます。全学年共通の取り組みとしては、毎時間の授業の振り返りを通じて、自分の考えの文章化を行っています。本年度もわずかに県平均を下回ったものの、去年度より改善傾向にあることから、今後取り組みを継続していきます。

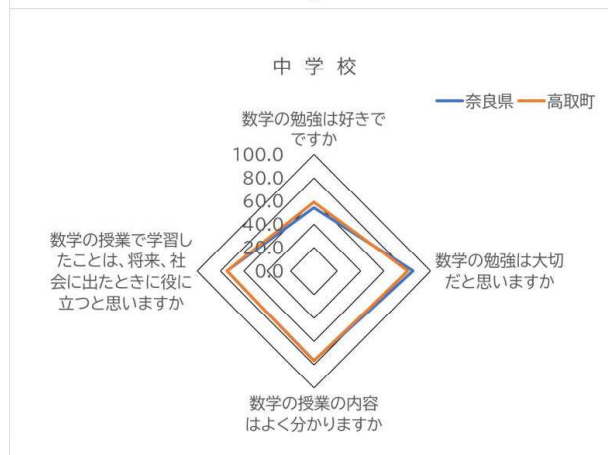
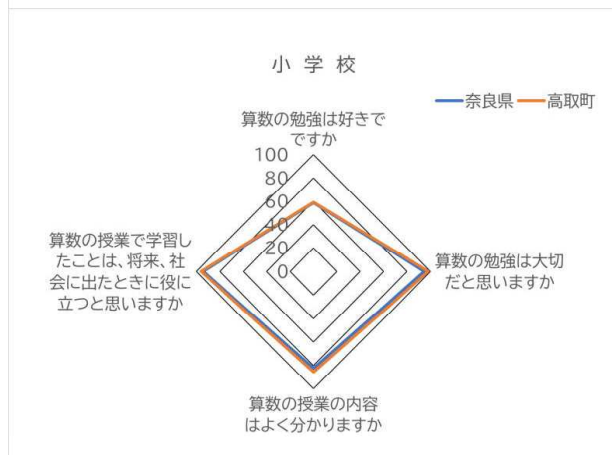
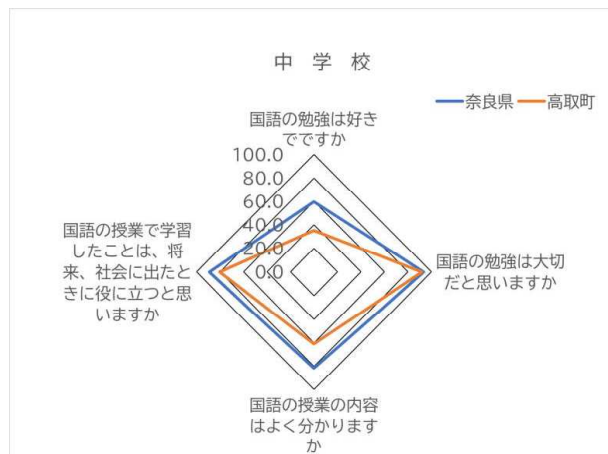
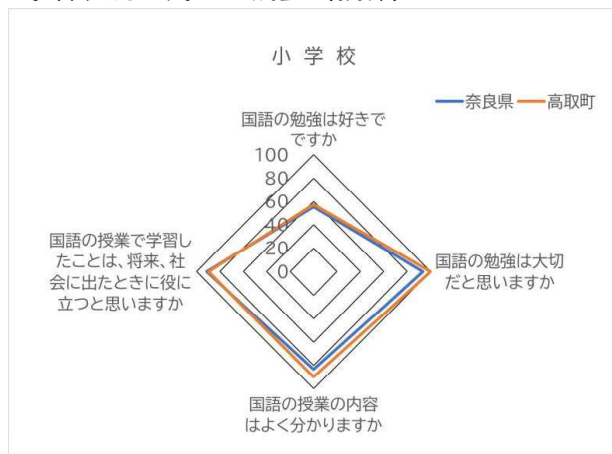
◇ 中学校では、国語の結果から本文を読み取り目的に応じて要約したり、表現の効果を考えて描写し自分の考えが伝わる文章を書いたりする力に課題が見られます。このことから国語の授業はもとより、読書活動（図書館教育を含む）の一層の充実を図り、書く力、文章をまとめる力（作文力）を付けるための取り組みを行っています。

数学では空間認識や、データを読み取り答えを導き出すところに課題が見られます。今後は授業や朝学習、放課後学習等において、当該範囲の学習の反復・復習に力を入れていきます。

さらに全ての教科において、読解力向上の取り組みが必要であると考えています。

参考資料

● 学習状況に関する調査（抜粋）



◇ 小学校は、国語と算数ともに「勉強は好きですか」の項目は県平均とあまり差はありませんが、国語では、「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「勉強は大切だと思いますか」の項目は県平均を上回っています。一方算数では、県平均と変わらない結果となっています。

どの教科においても、学びの楽しさと達成感を得られるよう主体的な学びのある授業を展開し、学ぶことの意義を感じることができるようになります。

◇ 中学校は、国語が県を全ての項目で下回っています。数学は2つの項目が県平均を上回っています。生徒たちは、現在の学習が将来社会に出た時に役立つという見通しを十分に持てていないため、勉強の大切さは分かっているものの、学習意欲がなかなか高まってこないのではないかと考えられます。

生徒が、自ら学習課題を見だし、見通しを持って学習に取り組み、生徒の興味・関心を高められる授業を展開できるようにします。

○ 高取町の児童生徒の学習と生活の充実のために

今回の学力学習状況調査の結果を踏まえ、これからの時代に求められる資質能力を身に付け能動的に学び続ける高取町の子どもたちの育成のために学習と生活の充実を図り、以下の点に重点を置きこれまで以上に取り組みを進めます。

◇ 基礎的・基本的な学習内容を確実なものとし、思考力・判断力・表現力を高める指導の推進

- (1) 幼小中の連携を図り、子どもたちの課題を共有した一貫した取り組み
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業創造
- (3) ICTをより効果的に活用した個別最適な学びと協働学習の実践
- (4) 全ての学びにつながる読解力向上の取り組み
- (5) 読書の楽しみを知らせ、読書の質を高めていくための読書活動の充実

◇ 子どもの自尊感情（自己肯定感、自己有用感）を育てる取り組みの推進

- (1) 個に応じた学びの展開と「分かる授業」づくり
- (2) 自信や成就感、自尊感情を持たせるために、道徳教育や特別活動などの取り組みの充実
- (3) 将来展望を持ち自立に向けたキャリア教育の推進

◇ 子どもの生活習慣を見直し、家庭学習や読書週間の定着を図るために家庭との連携を推進

- (1) 基本的な生活習慣や生活リズムの確立の大切さの啓発
- (2) 「家庭学習の手引」等を活用した家庭学習や自主的・計画的な学習の意識付け
- (3) テレビ、ゲーム、スマートフォンなどの使い方の家庭のルールづくりの啓発